



市立病院だより
ほほえみ

発行	越谷市立病院
発行人	院長 津村 秀憲
編集	院内情報誌編集委員会
連絡先	〒343-8577 越谷市東越谷10-47-1
電話	048-965-2221 (代)
FAX	048-965-3019
発行日	平成23年5月 (No.8)

チーム医療推進について

院長 津村 秀憲

「チーム医療」とは？

医療従事者がお互いに、対等に連絡しあつて、患者さん中心の医療を実現しようとする事です。従来は医師中心の医療が行われていました。同じ医療スタッフである看護師・薬剤師・放射線技師・臨床検査技師・栄養士・理学療法士等の専門性が発揮できなかつたり、医師同士も内科・外科などと医局の対立があつたりして、患者さんに最善の治療ができないことがありました。さらに医療の高度化、患者さん中心の医療が叫ばれる昨今では、医師一人で対応できない状況になってきました。例えば、患者さんがより安全に適切な治療をうけるために、医療安全対策を行うチーム、院内の感染を予防制御するチーム、褥瘡予防を行うチーム、がん治療のひとつに緩和を行うチーム、栄養状態の改善を行うチームなど、各々関係のある専門職が集まり、お互

いに患者さんの情報を共有・討論し、より良い医療が求められています。越谷市立病院においても、患者さん中心の医療を実践するために、医師・看護師・薬剤師・放射線技師・臨床検査技師・栄養士・理学療法士等から構成されている医療安全対策・院内感染対策・褥瘡予防対策・緩和治療・栄養管理・病診連携等を行うチーム（昨年のほほえみで紹介しました）が日常診療を行いながら活躍しています。今後は、既存のチーム医療の充実、さらにはニーズに沿った治療チームの新設を行い、きめ細かな診療を行いたいと考えています。

医療の中心は患者さんです。医療現場では、患者さんと医療チームの専門職員は、治療を行っていくパートナーです。患者さんも、従来の受動的に治療を受けるのではなく「患者の専門家」として日常生活の管理に責任を持ちながら、病状の変化を正確に伝達し、治療上の疑問・不安をパートナーとともに解消することが求められています。

チーム医療とは？

- ▶ チーム医療とは、医療環境のモデルのひとつ。従来、医師が中心となって医療業務を形成していたが、医療従事者がお互い対等に連携することで患者中心の医療を実現しようというもの。



C型慢性肝炎について

消化器科 佐々木 淳

1 C型慢性肝炎とは

肝炎を起こすC型肝炎ウイルスが感染し、6カ月以上肝臓の炎症が続き、肝臓の働きが悪くなつていく病気です。はじめはほとんど症状がありませんが、長い経過の後に肝硬変や肝臓に進行しやすいことが知られています。

2 感染の原因

C型肝炎ウイルスは感染している人の血液が他の人の血液の中に入ること感染します(輸血など)。空気感染や口からの感染はありません。感染者の多くは、C型肝炎ウイルスが発見される前の輸血や血液製剤、あるいは注射針の使い直しなどで感染したものと考えられています。問題になるのは、ピアスや入れ墨、覚せい剤などの回し打ち、あるいは不衛生な状態での鍼治療などです。性交渉による感染や母から子への感染(母子感染)はごくまれとされています。

3 C型慢性肝炎の経過

C型肝炎肝炎の約7割は徐々に病気が進行し、10〜30年でその3〜4割が肝硬変、さらに肝臓に移行するといわれ、とくに飲酒は進行を早めます。肝臓による死亡者数は2004年には約3万2000人が死亡し、男性では肺癌、胃癌に次いで癌死亡の第3位です(女性は第4位)。そして

肝臓の原因の約80%はC型肝炎肝炎、肝硬変であることがわかっています(最新がん統計(2004年)より)。

4 診断

わが国のC型肝炎肝炎の患者さんと症状のない持続感染者(キャリア)は約150万〜200万人いると推測され、年齢は40歳代以上に多く、何らかの治療を受けている人はわずか50万人です。残りの100万〜150万人の中には自分がC型肝炎ウイルスに感染していることに気づいていない人もいる可能性があります。C型肝炎ウイルス感染の有無は、まずC型肝炎ウイルス抗体を調べます。抗体陽性者はウイルス遺伝子(HCV-RNA)定性検査を行います。HCV-RNA定性検査が陽性でAST(GOT)とALT(GPT)に異常があれば、C型肝炎肝炎と診断されて治療することになります。

5 治療

最も期待されているのは、ペグインターフェロンの注射とリビリンという内服薬を組み合わせた治療です。C型肝炎肝炎が治る唯一の治療ですが、副作用があるため、治療するには他の病気がないか、治療に耐える体力があるか等いろいろなハードルがあります。現在、新しい薬もできており、今後の治療の進歩が期待されています。

『C型肝炎ウイルス(HCV)検査について』

臨床検査科 石上 園子

1 HCV抗体検査

人間の体は病気になると自然に治す力があり、また二度とその病気にかからないようにするために『抗体』が出来ます。しかしC型肝炎ウイルス(HCV)は、この『抗体』に見つからないように、やつつけられないように、どんな姿・形を変えてしまいます。つまり、HCV抗体があるということは、以前に感染したか、現在感染中を意味します。HCV抗体検査はスクリーニング(ふるいわけ)検査として利用され、当院では患者様から採血した後、約一時間で報告できる検査です。

2 HCV-RNA検査

HCV抗体検査で陽性になったら、実際にウイルスがいるかを調べる検査です。この検査は、ほんの少しのウイルスもほとんど増やして(増幅核酸法)発見する感度の良い検査です。

3 その他のHCV検査

HCVは大きく分けて四つの型に分かれています。その型によって効く薬や治療法が違ってきます。その型を調べるジェノタイプやタイピングという検査があります。

※2・3の検査は外部委託検査なので、報告までに4〜5日かかります。

C型慢性肝炎の治療薬について

《薬剤科 田中 真知子》

C型慢性肝炎の治療薬には、原因療法と対症療法があります

原因療法

C型肝炎ウイルスを体内から排除して完全治癒を目指します

対症療法

肝機能を改善して肝炎の悪化を防ぎます

● インターフェロン（注射）

インターフェロンは本来私たちの体の中でつくられる蛋白質で、ウイルスの増殖を抑える働きを持っています。これを薬として応用したのがインターフェロン製剤です。
（薬品名）ペグイントロン注、イントロンA注
ペガシス注

● グリチルリチン配合剤（注射など）

肝臓の細胞膜を強くすることによって肝細胞の破壊を防ぐ働きがあります。
（薬品名）強力ミノファーゲンC注
グリチロン錠

● リバビリン（内服）

インターフェロンと併用することによりインターフェロンのウイルス排除効果を増強します。カプセル剤・錠剤で内服します。
（薬品名）レベトールカプセル、コペガス錠

● ウルソデスオキシコール酸（内服）

肝臓の血流の流れをよくする、あるいは肝臓のエネルギーを蓄積することによって肝機能を改善する働きがあります。
（薬品名）ウルソ錠

採用医師の紹介

○4月1日付け

（外科）

すぎやま ゆうじ
杉山 祐之

（脳神経外科）

さいとう りきぞう
齋藤 力三

（臨床検査科）

たかせ まさる
高瀬 優

（呼吸器科）

みなみかた くにひこ
南方 邦彦

（消化器科）

はしもと たかし
橋本 崇

（消化器科）

すやま まさゆき
須山 正幸

（循環器科）

じょうき ゆうすけ
上木 裕介

（外科）

いん たいせい
尹 大成

（皮膚科）

くわえ よしゆき
桑江 義介

（泌尿器科）

の ま やすひろ
野間 泰央

（婦人科）

おおた たけお
太田 武雄

（婦人科）

かとう のりこ
加藤 紀子

（耳鼻咽喉科）

やない あや
矢内 彩

「利用者の声」から

Q 3ヶ月ぶりに市立病院にかかった時のことです。一日待つ事もあり、以前は1階のレストランで食事をさせて頂きました。体の事を考えたメニューもあり楽しみにしていました。しかし、今回レストランを利用しようと思ったら、コーヒーショップに替わっていました。コーヒーショップは駅にもたくさんあり、年輩者にとっては食堂のほうが助かります。

A 当院1階のレストランについては、本年4月より「カフェ」としてリニューアルをいたしました。以前のレストランは、患者様の満足度が低く、利用者も年々低下していたために、患者様や職員など、多数の要望がございました。「カフェ」として再オープンをしたものです。しかし、ご指摘のように「カフェ」には和食などの食事メニューはございませんので、お食事を希望される利用者の方につきましては、2階にございます職員食堂を職員以外の方にもご利用いただいております。

また、お昼の時間以外でも麺類などの軽食を召し上がれるよう、営業時間を午前9時から午後2時30分までといたしましたので、どうぞご利用ください。

編集後記

このたび東北地方太平洋沖地震において被害に遭われました皆様に衷心よりお見舞い申し上げます。「ほほえみ」第8号をお届けいたします。本誌に取り上げて欲しい内容がございましたら「利用者の声」の箱にご提案ください。お待ちしております。

院内情報誌編集委員長 石井 義之